その他の多様な番組

Ⅰ．番組制作の委託

1．関連団体への番組制作委託

NHKは，質の高い放送番組の安定的確保を図るとともに，外部の専門的能力を効果的に活用することで，番組のいっそうの多様化を推進する視点から，関連団体へ番組制作委託を行っている。

08年度も，NHKエンタープライズ，NHKエデュケーショナル，NHK情報ネットワークに，大型企画をはじめ各分野の番組制作を委託，総合ビジョンにはアニメ番組制作業務を委託，NHKサービスセンターには広報番組の制作を委託した。

08年度よりNHKプラネットに全国および地方番組を，日本国際放送に国際番組の制作業務を委託した。NHKでは，多様な番組を送り続けるべく，89年度から関連団体を通じて外部プロダクションへの制作委託を行っており，外部のさまざまな制作パワーを効率的に活用している。

08年度の主な外部プロダクション制作番組

○地上波

総合では，『土曜ドラマ』「上海タイフーン」，『土曜時代劇』「オトコマエ」，『ドキュメントにっぽんの現場』，教育では『ETV特集』などを制作・放送した。

○衛星・ハイビジョン

BS1では，『BSドキュメンタリー』，BS2では『素敵にガーデニングライフ』などを制作・放送した。HVでは，『ハイビジョン特集』『わたしが子どもだったころ』『アートエンターテインメント　迷宮美術館』などを制作・放送した。

2．外部プロダクションへの直接委託

外部制作プロダクションが，関連団体を経由することなく，直接編成部門に提案する窓口として，06年6月に編成局内にソフト開発センターが設立された。特集番組や新番組の提案について，NHK，NHKの関連団体，そして番組制作プロダクションの3者が，番組の企画提案や制作・演出手法を競い合うことで，より高品質，効率的，多様な放送番組を創造することを目的としている。直接委託番組は，外部プロダクションに向け，ホームページ上で常に募集を行っている。08年度は，テーマを決めて随時に募集する“A募集”と，自由に提案できる“B募集”の2つのタイプで企画を募集した。1年間で寄せられた企画は延べ636社1,387提案に上っている。08年度は『さんぷんまる』（総合：木，22:45），『びっくり法律旅行社』（総合：木，23:00），『○○の国の王子様』（教育：土，23:00）の3つの企画を定時番組として放送した。また，特集番組として放送した19本の中から，『タイムスクープハンター』『あなたが主役　50（フィフティー）ボイス』『大人ドリル』の3番組が新たに09年度の定時番組として採択された。外部プロダクションとの委託契約などにあたっては，下請法に準拠した手続きをとっている。また，「番組制作委託取引に関する自主基準」に基づき，公共性・透明性を高めるとともに，「新放送ガイドライン」を周知し，公共放送としての質の確保に努めている。

Ⅱ．購入番組

1．総合テレビ

（1）ドラマ

定時番組では，『太王四神記』（年度前期　土，23:10），『ファン・ジニ』（年度後期　土，23:10），『デスパレートな妻たち2』（年度前期　日，1:20），『アグリー・ベティ』（年度後期　日，午前1:20）を放送した。

特集番組としては英国ドラマ『恐竜SFドラマプライミーバル』（1月）を全6話放送した。

（2）ドキュメンタリー

ドキュメンタリーでは，『ヒロシマナガサキ～白い光　黒い雨　あの夏の記憶～』（08.8.5），『ブッシュの戦争』（08.9.2），『シリーズ　近未来予測』（09.1.1～1.4）などを放送した。

2．教育テレビ

（1）ドラマ

定時ドラマでは，月曜の夜7時に豪州ドラマ『気分はぐるぐる』（年度前期）と米国ドラマ『アルフ』（年度後期）を，火曜の夜7時に米国ドラマ『フルハウス』を放送した。

（2）ドキュメンタリー

ドキュメンタリーとしては，定時番組の『地球ドラマチック』（水，19:00）で，「ゾウはなぜ殺し屋になったのか」（6月），「ハリー・ポッター完結の瞬間」（7月），「赤ちゃんカワウソ物語」（9月），「クワイア　ボーイズ」（10月）などが好評を博した。

（3）その他

アニメでは，シリーズアニメとして『おさるのジョージ』（土，8:00），『精霊の守り人』（土，9:00），『アリソンとリリア』（土，9:25），『ひつじのショーン』『スポンジ･ボブ』（木，19:00）を放送した。

3．ハイビジョン

ドキュメンタリーでは，世界で制作されるユニークなハイビジョン番組を紹介する「ハイビジョン特集　フロンティア」で，「異界百物語～Jホラーの秘密を探る」（4.24），「レンブラントの告発～名画“夜警”に隠された31の謎」（10.16）「ネアンデルタール人の謎～最新報告・ゲノム解読の試み」（1.12），「人類滅亡を回避せよ～2075年地球温暖化のシナリオ」（1.17）などを放送した。

映画では，『ハイビジョン日曜シネマ』で「コーラス」「幸福」「ジャスミンの花開く」「シンドラーのリスト」「ネバーランド」「壬生義士伝」「フィールド・オブ・ドリームス」などを放送，『ハイビジョン金曜シネマ』（金，22:00）では，「ウォーターワールド」「すべては愛のために」「ヒトラー～最期の12日間」「男たちの挽歌」シリーズ，「トゥームストーン」「サウンド・オブ・サイレンス」などを放送した。『ハイビジョンシネマ』（随時）では「スーパーマン」シリーズ3部作（6.7，14，21），「東京物語」（9.10），「老親」（9.15），「エンジェルス」（10.13），などを放送した。また，11月開催のNHKアジア・フィルム・フェスティバルに向けて，9月に「1735km」「京義線」「雨の味」などアジア映画7本を編成した。

ドラマでは，07年度から引き続き『太王四神記』（月，22:00，～5月）を放送。また1月からは，『刑事コロンボ』デジタル・リマスター完全版（土，20:00）の放送を開始した。また『春のワルツ　総集編』再放送（9.29～30）も行った。

『アニメ映画劇場』（日，21:00）では「鉄人28号　白昼の残月」「銀河英雄伝説　新たなる戦いの序曲」「秒速5センチメートル」「鋼の錬金術師シャンバラを征く者」「おさるのジョージ」「エスカフローネ」「スター・ウォーズ／クローン・ウォーズ」などを放送した。

4．BS1

世界各国が制作した優れたドキュメンタリーを長年にわたり放送してきた『BS世界のドキュメンタリー』は，08年後期から，NHKと関連会社，日本国内の独立系プロダクションが制作する『BSドキュメンタリー』と合体した。BS1のドキュメンタリー枠を統一し，放送時間帯を定時化することで，視聴者への遡及（そきゅう）力をさらに上げるのが目的である。その結果，海外制作番組と両方で，視点や表現のスタイルを比較するといった見方もできるようになり，制作者も切磋琢磨（さたくま）してドキュメンタリーの品質向上につなげている。ホームページや掲示板への視聴者からの反応も増え，合体の効果も出始めている。国内制作の番組では，四川大地震を見つめたシリーズへの反響が多かった。また，08年秋以後の世界的な金融危機を受け，海外購入，国際共同制作，国内制作で計6本の番組を集め，世界金融破綻（たん）シリーズを09年2月に放送した。このシリーズはいずれもNOD（NHKオンデマンド）の視聴ランキング上位に入った。海外勢と国内制作が協力してシリーズ化を実現し，各国における金融破綻の実態を視聴者に提示した。国際共同制作では，3本シリーズ「イランとアメリカ」で，イランの歴代大統領がインタビューに答えるなど，貴重な資料映像も交え，今の国際情勢を見つめる番組となった。また09年3月には過去に放送したイラク戦争関連の番組を，再放送および新作含め計24本のラインアップで編成した。

5．BS2

映画，ドラマ，アニメーション，音楽など，幅広く購入番組を放送した。

08年は黒澤明監督の没後10年にあたり，BS2では黒澤監督作品全30本の放送を中心に，年間を通した特集編成を実施した。4月の「羅生門」「用心棒」の放送から始まり，5月の大型連休に「野良犬」「わが青春に悔なし」，8月に「生きる」，9月6日の監督の命日には「七人の侍」，10月は「天国と地獄」，11月は「赤ひげ」，12月には「デルス・ウザーラ」「影武者」などを放送し，遺作の「まあだだよ」で締めくくった。映画の前後のミニ番組で解説を行ったほか，『クロサワ・アーカイブス特集』など，さまざまな関連番組を編成した。30作を放送後，視聴者に呼びかけ「あなたが選ぶ黒澤アンコール」への投票を募集し，票が多かった上位5作品（1位は「七人の侍」）を2月夜間に放送，その他25作品は2～3月の午後および深夜で集中アンコール放送した。

『衛星映画劇場』夜間枠（月～木，21:00）では，4月は「オールド・ルーキー」「トスカーナの休日」，6月は「時をかける少女」「戦国自衛隊」など角川映画シリーズ，7月は「アポロ13」

「東京オリンピック」，８月は「ブルークラッシュ」「ジャイアンツ」，９月は「オペラ座の怪人」，山田洋次監督の「学校」シリーズ４部作，12月は「トイ・ストーリー」「アイス・エイジ」など大ヒット・アニメ特集などを放送した。１月には「ウォーク・ザ・ライン　君につづく道」「フィールド・オブ・ドリームス」などを編成した。また，５月にサンダンス・NHK国際映像作家賞の募集にあわせ，「酒井家のしあわせ」「ウール100％」など同賞受賞作品特集，10月には「予感」（イラン・NHK国際共同制作）などNHKアジア・フィルム・フェスティバル特集を編成した。11月１日から５日間にわたってNHKふれあいホールで開催した「第９回NHKアジア・フィルム・フェスティバル」では，「僕たちのキックオフ」（イラク・クルディスタン地域・NHK国際共同制作），「MY　SON～あふれる想い」（韓国）など６作品を上映し，上映後には観客と，来日した各作品の監督・出演者とのQ＆Aを実施した。

２月から３月にかけては「ゴッドファーザー」３部作のあと「アカデミー受賞作品特集」を実施，「怒りの葡萄」「シリアナ」「サウンド・オブ・ミュージック」「クレイマー，クレイマー」「海を飛ぶ夢」などを編成した。また，『第66回ゴールデングローブ賞　授賞式のすべて』，『第81回アカデミー賞授賞式のすべて』を放送，後者では日本映画で初めて外国語映画賞を受賞した「おくりびと」の関係者インタビューもあわせて紹介した。

午後枠（月～金，13:00）は，洋画では「ローマ帝国の滅亡」「ボージェスト」「砂塵」「夏の嵐」「大理石の男」「我が道を往く」「ナバロンの要塞」など，邦画では「台所太平記」「鰯雲」「雪国」「勝利者」「若草物語」「次郎長三国志」シリーズなどを放送した。深夜枠は土曜深夜が復活，週５本編成となった。洋画は「砂と霧の家」「スーパーマン」シリーズ３部作，「ニュースの天才」「ブルーサンダー」「枢機卿」「さすらいの航海」「卒業」「ハリーとトント」「天井桟敷の人々」など，邦画は「竜馬暗殺」「探偵物語」「あらくれ」「東海道四谷怪談」「とらばいゆ」などを放送した。

また，亡くなった映画人の追悼特集を実施。俳優チャールトン・ヘストンをしのび「猿の惑星」「ベン・ハー」を，記録映画作家・土本典昭さんをしのび「水俣～患者さんとその世界」を，俳優ポール・ニューマンをしのび「スティング」「タワーリング・インフェルノ」などを放送した。

『アクターズ・スタジオ・インタビュー』では，ダイアナ・ロス，エディ・マーフィー，ポール・ニューマン，ジョン・キューザックなどを紹介した。

ドラマでは，海外連続ドラマの定時番組として台湾ドラマ『ザ・ホスピタル』（月，23:00，07年度から引き続き７月まで），米国ドラマ『ER XIII：緊急救命室』（同，年度後期），米国ドラマ『名探偵モンク５』（火，23:00，７月まで），米国ドラマ『アグリー・ベティ２』（同，年度後期），米国ドラマ『ダメージ』（水，23:00，７月まで），英国ドラマ『華麗なるペテン師たち２』（同，７～８月），英国ドラマ『奥さまは首相～ミセス・プリチャードの挑戦』（同，８～10月），英国ドラマ『ステート・オブ・プレイ～陰謀の構図』（同，10～11月），英国ドラマ『ホテル・バビロン』（同，11～１月），英国ドラマ『ステート・ウイズイン～テロリストの幻影』（同，１～３月），韓国ドラマ『ファン・ジニ』（日，21:00　年度前期），韓国ドラマ『太王四神記』（同，年度後期）を放送した。

また『懐かし連続ドラマ』として米国ドラマ『コンバット！』（金，18:00），『奥さまは魔女』（金，19:45），『スター・トレック　宇宙大作戦』デジタル・リマスター版（土，17:00）を放送した。

特集ドラマは，『衛星映画劇場』枠で，『フランケンシュタイン（前後編）』（4.2～3），『ミス・マープル』（5.6～9），『ミス・マープル２』（6.23～26）を放送した。

アンコール放送としては，『モンク４』（８～９月にセレクション８話），『クッキ』（４～９月），『春のワルツ』（8.4～16集中再放送），『ザ・ホスピタル』（10月～），『ステート・オブ・プレイ～陰謀の構図』（１月集中再放送），『デスパレートな妻たち３』（3.24～4.5集中再放送），『アグリー・ベティ』（3.23～30集中再放送）を放送した。

アニメーションでは『衛星アニメ劇場』（木23:00）で「アリソンとリリア」「タイタニア」を放送，『BS 名作アニメ劇場』（月～木　10:20，12:35）では「山ねずみロッキーチャック」「ニルスのふしぎな旅」「母をたずねて三千里」「愛少女ポリアンナ物語」を放送した。

『アニメアンコール』（火　0:00）で「カウボーイビバップ」「巌窟王」「蟲師」を放送した。

夏・冬・春休みに特集『BSアニメ特選』を編成，「銀河鉄道999」「アンネの日記」「ピーターと狼」「MARCO 母をたずねて三千里」「銀河英雄

伝説」「デジモンアドベンチャー」「キャプテン」「ラブ・ローラーコースター」「ロビーとブリッツェン」「ルパン三世バビロンの黄金伝説」「アナはごきげんななめ」「海のトリトン」などを放送した。

その他，『トニー賞授賞式2008』（6.29），『第36回アメリカン・ミュージック・アウォード』（12.28）を放送した。

Ⅲ．国際共同制作

NHKは80年から，継続的に海外の放送局や制作会社，配給会社と国際共同制作を行っている。事務局は編成局ソフト開発センターに置いている。

国際共同制作は大型番組を制作する上で今や世界的に常識となっている。この背景には，テレビ番組市場を巡る環境が厳しさを増していることが要因としてあげられる。インターネットとの競合や多チャンネル化で良質なソフトへの需要が高まる中，国際間で制作費を分担して高品質の番組を確保する動きが活発化しているといえる。

08年度に放送した国際共同制作番組は49タイトル，98本であった。

ナショナルジオグラフィックUS，フランス・テレビジョン・ディストリビューションが共同制作参加した『NHKスペシャル』「月と地球　46億年の物語～探査機かぐや　最新報告」では，月の表面や月から見た地球のハイビジョン映像を世界で初めて配信し，インパクトある番組映像の国際展開を実現した。

『発掘アジアドキュメンタリー』では，NHKが主体となり，シンガポール・韓国の公共放送局とともにアジアの番組制作者に提案を公募し，ユニークな視点の番組を制作，ドキュメンタリー番組制作の新たな手法を開拓した。

08年度に放送された主な国際共同制作番組

○ドキュメンタリー

『NHKスペシャル』「月と地球　46億年の物語～探査機かぐや　最新報告」：フランス・テレビジョン・ディストリビューション（仏），ナショナルジオグラフィックUS（米）。『NHKスペシャル』「ミラクルボディー」：アルテ（仏），NFB（カナダ）。シリーズ『発掘アジアドキュメンタリー』：メディア・コープ（シンガポール），KBS（韓国）ほか。

○音楽ほか

ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー『リア王』：ザ・パフォーマンス・カンパニー（英），『メンデルスゾーン生誕200年記念ガラ・コンサート』：ユーロ・アーツ（独），英国ロイヤル・バレエ団　バレエ『マノン』：ロイヤル・オペラ・ハウス（英）

アナウンス

1．公共放送の顔として多彩な業務を展開

08年度，アナウンサーは「洞爺湖サミット」「福田首相辞任と麻生内閣の発足」「アメリカ大統領選挙」などの内外の動きを『ニュース7』をはじめとする定時ニュース番組や特集番組で伝えたほか，「岩手・宮城内陸地震」などの災害・緊急報道で迅速な現場中継を行った。北京五輪では，日本人選手の活躍を現地からの実況で伝えた。また公共放送ならではの「環境キャンペーン」では，スタジオキャスターのほか，世界各地の現状を伝えるリポーターを配置するなど，視聴者に最も身近な顔として，的確かつ親しみやすく情報を送り届ける役目を担った。アナウンス室制作の番組では，『100年インタビュー』などアナウンサーの専門性を生かした番組を制作し放送した。このほか社会貢献の取り組みとして「朗読ひろば」も開始し，大きな反響を呼んでいる。

08年3月末現在，アナウンサーは総勢488人で，内訳はアナウンス室126人，ラジオセンター・日本語センター・情報ネットワーク・地域放送局計362人である。女性アナウンサーは全国で77人。

（1）一般番組

08年度，NHKが重点的に取り組んだ「環境キャンペーン」では，松本和也アナ，山口勝アナの2人をキャスターに起用し，6月の『SAVE THE FUTURE』でテレソンの司会を務めたのをはじめ，「洞爺湖サミット」や「地球エコ2008」の関連番組でも“環境の顔”としてキャンペーンの定着を図った。

『世界一周！地球に触れる・エコ大紀行』では，柴崎行雄アナ，田代杏子アナの2人が，それぞれ南半球と北半球に分かれて世界各地のエコツアーを体験。4月から9か月間かけて世界を一周し，雄大な自然や深刻な環境危機の現状を，中継を交えて臨場感たっぷりに伝えた。男性リポーターは全国放送の定時番組では初めてNHKアナウンス職員内でオーディションを実施し選抜した。

その他の定時番組では，『テレ遊び　パフォ

ー！』『ジェネレーションY～地球未来図』などの若者向け新番組に女性の若手アナウンサーを起用する一方，大きく改定を行ったラジオ第1放送には経験豊富なベテランアナウンサーを重点的に配置した。

夏の特集編成では，38番組延べ54人のアナウンサーが対応した。『たったひとりの反乱』(7.30)，『アレ　今　どうなった？』(7.31)，『クイズでGo！ローカル線の旅』(8.4) などの開発番組で司会を担当。終戦関連番組では『NHKスペシャル』「見過ごされた被爆～残留放射線　63年後の真実」(8.6)，「解かれた封印～米軍カメラマンが見たNAGASAKI」(8.7)，『埋もれた地下兵器工場』(8.7)，北京オリンピック関連では『NHKスペシャル』「女子マラソン　連覇へ」(8.3)，「“栄光の架け橋”ふたたび」(8.4)，「ミラクルボディー」(8.6) のナレーションを担当した。

年末年始の特集編成では，72番組に延べ126人のアナウンサーが対応した。『紅白歌合戦』(12.31) では総合司会のほか，飛行船やブラジルからの中継も担当。地域応援特番『東西対抗今年も元気だ！いよっ　日本一！スペシャル』(1.1) では地域局の6人のアナウンサーが各地の正月の表情を中継で伝えた。また放送開始50年を迎えた教育テレビのキャンペーン「ETV50学ぶ冒険」に関連する特番のキャスターやナレーションを担当した。

(2) 報　道

〔政治・経済・国際〕

7月，地球温暖化対策を主要テーマに「北海道洞爺湖サミット」が開かれ，世界22か国の首脳が集った。アナ室からは『おはよう日本』のキャスターが現地から会議の模様や舞台裏をリポートした。

9月1日，福田康夫首相が突然，辞意を表明。『ニュースウオッチ9』が拡大され，女性キャスターが冷静に対応した。

自民党総裁選挙（9月22日）では麻生太郎氏が圧勝して自民党総裁に就任し，首班指名の結果，麻生政権が発足した。一連の政治報道では，アナウンサーが特番キャスターや現場リポーターとして活躍した。

11月5日，アメリカ大統領選挙が行われ，民主党のオバマ候補が共和党のマケイン候補に大差をつけて，アメリカ史上初めての黒人大統領が誕生した。特設ニュースでは担当アナが開票の模様を的確に伝えた。1月にワシントンで行われたオバマ大統領の就任式の模様は深夜の特設ニュースで生中継され，歴史的な瞬間の実況を行った。

〔事件・事故・災害・緊急報道関連〕

6月8日，若者でにぎわう東京・秋葉原で25才の若者がトラックで通行人をはねた後，周りの人を次々に刺し7人が死亡する「秋葉原通り魔殺人事件」が発生し，特設ニュースで伝えた。

6月14日，岩手県南部を震源とし，震度6強を観測した「岩手・宮城内陸地震」が発生。死者・行方不明者は23人に上った。直後に発表された「緊急地震速報」に『週刊ニュース』を放送中の畠山智之キャスターが冷静な呼びかけを行った。アナ室では全国各局から延べ52人のアナをリポーターや現地局支援の要員として送り込むなど総力で放送に当たった。

7月24日，岩手県沿岸北部で震度6強を観測する地震が発生。この時，ニュースセンターでは，「地震・津波訓練」の最中だったが，即座に放送を開始。“災害に強いNHK”を実現すべく，的確なスタジオワークを行った。

7月28日，神戸市内の川が大雨で急激に増水し，小学生ら4人が流され死亡する事故が発生。8月5日には，東京豊島区の下水道工事現場でも作業員が増水によって流され，5人が死亡する事故が発生し，リポーターが現場から中継に当たった。

11月17日，18日，元厚生事務次官2人の自宅が宅配業者を装った男に相次いで襲撃され，3人が死亡。22日に男が「元事務次官を殺した」と警察に出頭し逮捕された。一連の動きを各番組のキャスターが冷静に伝えた。

3月19日，群馬県渋川市の老人施設で火災が発生，逃げ遅れたお年寄り10人が死亡した。番組の公開収録のため群馬県内にいた男性アナが急遽，現場に向かい中継リポートに当たった。

〔社会・スポーツ〕

11月，ノーベル賞が発表され，物理学賞と化学賞に合わせて4人の日本人が輝いた。景気後退で暗い話題が多かった日本列島には久々の明るいニュースとなった。『おはよう日本』や『ニュースウオッチ9』のキャスターが受賞者にインタビューし，受賞の喜びや素顔を伝えた。

9月にコメの販売会社「三笠フーズ」が汚染米を「食用」と偽って転売していたことが発覚。「食への不信」が広がった。『ニュースウオッチ9』の男性リポーターが汚染米問題を継続取材し，数々のリポートを制作・放送した。

(3) スポーツ中継

08年度最大のスポーツイベントである北京オリンピック（8月8～24日）では，今回も民放とN

HK合同のジャパンコンソーシアム（JC）が中継を担当した。NHKからは11人が派遣され，ソフトボールの金メダル獲得（工藤三郎アナ），競泳平泳ぎの北島康介選手の２種目２連覇達成（石川洋アナ），柔道・石井慧選手らの金メダル（道谷眞平アナ），陸上男子400mリレー初の銅メダル（竹林宏アナ）を実況したほか，開会式，閉会式の模様を伝えた。

大リーグ（MLB）は08年度，BS1，総合テレビ，ハイビジョンで234本を放送。イチロー選手をはじめ，松坂大輔投手や岩村明憲選手など日本人選手の活躍を伝えた。

プロ野球は総合，BS1，ハイビジョンで合計124試合を放送。阪神の独走から巨人の大逆転優勝，西武の強さが目立ったペナントレース，注目を集めるクライマックスシリーズ中継なども伝えた。

サッカーでは，ワールドカップ南アフリカ大会・アジア最終予選を５試合放送し，岡田監督率いる日本代表の戦いぶりを，関連番組を交えて放送した。Jリーグは08年度も各節１試合をBSで中継。開幕や優勝争いの激しくなった終盤には総合テレビでも放送し，鹿島アントラーズが最終節で優勝する瞬間を札幌ドームから伝えた。イングランド・プレミアリーグも強豪クラブを中心に週３回放送した。

大相撲は，横綱の白鵬が６場所中３連覇を含む４場所で優勝し，群を抜く強さを示す一方，怪我などのために休んでいた朝青龍が初場所で23回目の優勝を決め，存在感を示した。このほか，力士の大麻問題などの不祥事を踏まえて，中継で大相撲再生のための提言を放送した。また新たな試みとして，実況アナの提案により元横綱の輪島大士さん，タレントのデーモン小暮閣下さんのゲスト出演を実現させ，大きな話題を呼んだ。

プロバスケットbjリーグや，新たな参入チームが全国で３つ増えたJリーグの地域向けの放送では中継や特番を含めて視聴者のニーズに応えた。

２．アナウンス室制作番組

２年目を迎えたHVの『100年インタビュー』は10本を制作，各界の第一線で活躍している人物に人生哲学や，未来へのメッセージを聞いた。08年度は，坂本龍一・鈴木敏文・山折哲雄・半藤一利・森光子・羽生善治・宮崎駿・河合雅雄・竹本住大夫・池澤夏樹の各氏をゲストに迎え，石澤典夫・渡邊あゆみ・坪倉善彦の３人のアナウンサーが聞いた。

総合『お元気ですか　日本列島』の「気になることば」は６年目を迎え，“ことばおじさん”の梅津正樹アナが，視聴者からのことばの疑問に答える形で，ことばが変化していく背景や地域のことばの魅力を届けた。

「気になることば」の内容をコンパクトにまとめた『ことばおじさんのナットク日本語塾』（教育テレビ）ではCGスタジオやイラストを駆使して，日本語の素朴な疑問をわかりやすく解説し，08年度は40本を制作した。

著名人の原点となった場所でふるさとへの思いを聞く『ホリデーインタビュー』（総合テレビ）は08年度，アナウンス室主管で14本を制作した。

R1『ラジオ文芸館』では，アナウンサーの朗読で名作から最新の人気作品まで幅広く文学作品の魅力を届け，08年度は新作27本を制作した。

R2では，08年度から『ことば力アップ』がスタート，テキスト連動で52本制作した。アナウンサーが表現や朗読，敬語などをテーマに，実践的に伝えるノウハウをわかりやすく紹介した。

３．社会貢献への取り組み～朗読ひろば

アナウンサーの専門性を生かした社会貢献として，小学校に出向いて絵本を朗読し，子どもたちにことばの魅力を伝える取り組み「NHK朗読ひろば～アナウンサーが広げることばの世界」を，10月から事業センターと共同で初めて実施した。

08年度は以下の５校で合わせて児童920人が参加した。

・目黒区立下目黒小学校（10月10日）
・港区立赤羽小学校（10月30日）
・神奈川県相模原市立青葉小学校（１月30日）
・長野県長野市立大豆島小学校（２月10日）
・埼玉県新座市立新開小学校（２月17日）

小学校高学年の児童，教師，保護者を対象に，アナウンサーが教室や体育館で，絵本や教科書からの作品を朗読。プロジェクターを使った映像や，ピアノの生演奏や効果音の演出もくふうし，朗読の合い間には「朗読のコツ」を教えるコーナーも設けた。

参加者からは「本を読む楽しさ，読んであげる楽しさを知ることができた」などの感想が聞かれ，満足度の高いイベントとなった。また，保護者や教師を対象に「ふれあいミーティング」も実施し，「NHKがとても身近になった」などの意見が寄せられた。

「朗読ひろば」の様子は，『どーんと生放送教育フェア2008』（E，11.3）や『三つのたまご』

（G，12.7）などの全国放送や，地域局のローカルニュース，FM番組でも紹介された。

映像デザイン

1．組織体制と重点業務

（1）2008年度組織体制

06年度の組織改正により「番組制作局　映像デザイン」から「放送総局　デザインセンター（映像デザイン）」となって3年目である。

公共放送を支える映像デザインの高い専門性は，番組，ニュース，イベント等問わず，演出表現の一部であり，「番組ガイドライン」を遵守しながら，美術予算をいかに効率よく，視聴者に説明責任が果たせる形で執行していくのか，大きな役割と責務を担っている。

（2）専門性発揮への貢献

【国際放送局リニューアル】

国際放送局「NHKワールド」のリニューアルに伴い，そのトータルデザインを映像デザインのデザイナーが手がけた。ロゴや印刷媒体をはじめ，スタジオや建築・内装に至るまで統一したコンセプトの下にデザインを行った。3年前のニュースデザインプロジェクト発足以来，1つの大きな成果となり，今後に向けてデザイナーの存在をアピール・発信するよい前例となった。

【デザイン特賞】

08年度で3年目になる「デザイン特賞」は，全国の放送局で制作された番組を対象に，優れた専門性と表現力で“NHKならではの放送”に大きく貢献したデザイナーの功績を放送総局長が表彰する。

選考ポイントは「安定感十分な，良質なデザイン」「斬新で独創性豊かで完成度が高く優れたデザイン」「時代をリードし新しい視聴者層の獲得に向け，親しみあるNHKイメージを作り上げたデザイン」等である。

【CS活動への参加】

NHKの大型イベントである「渋谷DEどーも！」「教育フェア」などにおける企画展示体験コーナーなどに積極的に参加し，視聴者サービスに大きく貢献した。

（3）経営資源の効率的運用

【デザイン計画の取り組み】

デザイン計画班では，番組総合窓口機能と合わせて「よいデザイン実施」と「効率的なデザイン計画」についてさまざまな施策検討を担い，業務の両輪として位置づけている。美術規模の策定・検討，美術業務の契約・仕様検討など，映像デザイン部の業務全体に責任を持つベーシックデザイン事務局では，各種データの蓄積・分析などを実施し，映像デザイン業務に伴う経営資源の適正な運用に努めた。

（4）ETV50への貢献

【2009年ベーシックデザイン計画】

教育テレビ50周年である08年度は，ETVのステーションイメージの確立をするため，教育番組を中心とした共通ユニットを開発した。また，環境問題をメインテーマとした「エコ・ベーシック計画」では，セットのリユースの促進，リサイクル素材導入，保管スペース削減の達成などをスローガンに81番組を対象に実施。パーマネントおよび準パーマネントセットでのベーシック化などにより，経費削減効果と省スペース化に取り組んだ。

2．番組制作における映像デザイン

（1）報道・情報番組

08年度に大幅な改修をした報道フロアの『ニュースウオッチ9』と『おはよう日本』のデザインは，「ニュースデザインプロジェクト」のコンセプトを十分に反映したものとなった。

09年度は主に『ニュース7』の改修を行い，よりいっそうNHKらしい，品格のあるセット作りを心がけてデザインを行っている。

『クローズアップ現代』と『経済ワイドビジョンe』，また『ゆうどきネットワーク』と『スタジオパークからこんにちは』と『土曜スタジオパーク』など，セット更新番組についても，従来からのセットやパーツの共有化を行って，汎用性を保ちつつ番組特性を十分に発揮できるセットデザインに努めている。

（2）NHKスペシャル・大型企画

『NHKスペシャル』「JAPANデビュー」プロジェクトでは，企画構築の段階からデザイナーが参加し，イメージの共有が図られている。これまでの，タイトルとグラフィックを含めた番組のトータルイメージデザインよりもいっそう深く番組作りにかかわる展開になっている。

08年度では，『NHKスペシャル』「病の起源」で，病気のルーツを探る場となるメインセットを，時空を超えた図書館のイメージで作り，大道具のセットとCGによるバーチャルセットを合成する映像設計を行った。より自由な表現と美術の専門性を生かすことで，番組全体のイメージに広がりを持たせた。

（3）教育・文化福祉番組

教育テレビができて50年を迎えた08年度は，編成局を中心に特集番組などでのイメージ戦略を行った。デザイナーは制作企画段階より参加して，番組ロゴやキャラクターなど統一イメージを作り，「ETV50」関連特番では，新鮮な感覚の映像表現に成功した。『ETVワイド　ともに生きる』では，視聴者がリラックスできる癒やしの空間をコンセプトに『ETVワイド　ともに生きる』『ろうを生きる　難聴を生きる』『NHKみんなの手話』など，福祉番組共通のセットやロゴを用いたデザイン展開を行っている。

（4）音楽・芸能番組

『歌謡コンサート』『SONGS』『MUSIC JAPAN』『どれみふぁワンダーランド』などの定時番組は安定したクオリティーでエンターテインメント色豊かな音楽番組のステージを提供し，視聴者から多くの支持を得ている。また『第40回思い出のメロディー』は東京タワーをモチーフにした大胆なデザインで好評を得た。『第59回NHK紅白歌合戦』は3階建ての基本セットの中で，大型スクリーンを採用して，映像表現の幅を広げるとともに，綿密に計算されたセット転換により色とりどりの場面を表現した。『第52回NHKニューイヤー・オペラコンサート』では，古典的なオペラの舞台を基調にしながらも新鮮な映像表現を加え，魅力ある舞台を提供した。

（5）ドラマ番組

09年1月から放送の大河ドラマ『天地人』では，主人公の直江兼続の，戦国から江戸初期までの激動期の青春群像をていねいに表現した。また美術セットでは，越後の地域色や現地特有の四季の移ろいを描きこみ，生活感や時代感に厚みを加えている。

『連続テレビ小説～瞳』では，東京の月島を舞台に，美術的にも新旧が微妙に交錯する現代の下町を，印象的に創造していった。

『土曜ドラマ』では，「トップセールス」「上海タイフーン」など，自分の活路を切り開く女性が主人公のドラマが企画された。美術的には，それぞれ異った時代の女性特有の生活感などの表現にくふうをした。

08年度から，新しいドラマ枠として『土曜時代劇』『ドラマ8』が始まった。30分となった時代劇は，斬新な演出手法も相まって，視聴者にも受け入れられている。美術的には予算の考え方など新たな取り組みを行っている。

地方局制作のドラマが高く評価されたのも08年度の特徴であった。広島局制作の『帽子』，福岡局『博多　はたおと』，仙台局『お米のなみだ』と各局デザイナーの業績も高く評価された。

09年度は，ドラマにも新たにワンセグ独自放送の制作が加わるほか，ドラマのトータルデザインへの取り組みなど，デザイン業務に新たな広がりが求められている。

（6）データ放送への取り組み

地上デジタル，BSデジタル，ワンセグ放送のデータ放送では，ニュースや天気，番組情報に加え各地域の身近な情報などをわかりやすく視聴者に伝えている。

台風や大雨のシーズンには衛星画像による雲の分布や予想天気図など，岩手・宮城内陸地震では仙台局・盛岡局で災害情報をいち早く放送，洞爺湖サミットでは首脳プロフィールや地球環境の取り組みなど，スポーツでは北京オリンピックやプロ野球，全国高校野球，全国高校駅伝，MLB，Jリーグなど試合経過・結果情報など，紅白歌合戦では双方向を生かした投票や曲目情報や歌手からのメッセージなど，幅広いさまざまな番組でデータ放送の制作に取り組んでいる。

3．環境問題への取り組み

環境に優しい素材の選定，セットの保管坪数の総量規制等，エコロジーをメインテーマに計画を進めた。08年度は，環境3R（Reduce・Reuse・Recycle）の中でも特にリサイクルに力を注いだ。美術セットのリサイクル処理において，NHKが「排出事業者」として，09年度から産業廃棄物の収集・運搬および処分業者と年間契約を締結する方針を固めた。番組終了後，セットを保管し再利用するか，排出するかを検討し，排出するセットは木屑，スチロール，金属屑，廃プラスチック等に分別し，それぞれリサイクル処理を行う。例えば木屑は“木質基材”に，スチロールは“プラスチック製品原料”等にマテリアル・リサイクルを行う。また木屑を「炭化」し再利用する試みも検討中で，専門機関で品質検査を行い安全性の確認をした。また新素材で「リサイクル率100％の畳」を，『連続テレビ小説～つばさ』に一部導入した。さらにセットの搬入出のためのトラック輸送の効率向上と，コストダウンおよびCO_2削減のため，運行回数や積載率等のデータ分析を行った。美術セットの「運搬・保管・排出」の効率的運用をグローバルに推進し，環境への配慮に今後も貢献していく方針である。

4．美術業務委託管理

03年度に美術業務改革を行い，美術業務は「ものの取引」から「創造性の取引」に業務委託の契約を転換した。関連団体であるNHKアートとは，6つの検討部会（一般番組検討部会，ドラマ番組検討部会，危機管理検討部会，保管・管理検討部会，セット構造検討部会，グラフィック制作業務改革検討作業部会）があり，危機管理を含めた委託業務全般に関する課題の洗い出し，改善・改革などを定期的に行っている。

また，4年目を迎える「美術業務審査会」では，美術業務委託における契約内容，契約手続きなどの適正性や透明性を確保するため，デザイナーが事前に美術コストなどを計画し作成する「デザイン計画書」をはじめ，契約内容，納品に至るまでその妥当性を審査。08年度は対象を絞り込み，美術業務の透明性と説明性を担保している。

音響デザイン

音響デザインはよりプロフェッショナルな音響演出を実現するため，専門知識を豊富に持ち，表現力に傑出した人材で構成された組織を目指している。08年は政治や経済の予測のできない激しい動きが国内的にも国際的にも押し寄せ，金融危機や食品偽装が生活を脅かし，先行きに対する不安とあらゆる制度への不信が噴出した。こうした政治社会状況や経済国際情勢を受けて制作される番組に対して，常にNHK音響デザイナーとしての立場を堅持し，冷静で適正な報道情報の音響作りを実施してきた。

大河ドラマ『篤姫』では，これまで培ってきた制作スタッフ全員の計算されたプロフェッショナリズムが総合力となって結集した。堅調なドラマ制作を支え，視聴者の期待に対してドラマ音響監督として責任を果たすべく，若手からベテランまでたゆまない努力で音表現の技量を磨き，良質な番組制作に臨んでいる。

1．番組制作関連

（1）情報・教養・開発番組

NHKの新しい制作体制である「国内共同制作」が始動し，その1つである『はろ～！あにまる』を，音響デザイン若手職員が中心となって担当した。また地域を支える“若い力”を若手PDが取材し，伝える『ドキュメント挑戦』が始まり，躍動感あふれるテーマ音楽と音響表現で番組を支えた。09年度に向けての開発番組も数多く制作された。『ファミリーヒストリー』『不屈の者たちへ』『祝女』『笑・神・降・臨』など09年度の定時化を目指して，斬新なアイデアと個性的な音付けを行った。

（2）報道・スポーツ番組

5月に起きた「四川大地震」や9月のリーマンブラザーズ破綻によって起きた「世界同時不況」などの緊急報道に対し，被害の実状とその広がりを的確な音響表現で伝えた。8月に行われた北京オリンピックでは，アスリートたちの熱戦を余すところなく，生き生きと表現した。

（3）NHKスペシャル・特集番組など

08年度も「沸騰都市」「病の起源」「女と男」などの大型企画が放送され，印象的なテーマ音楽とともにエンターテインメント性あふれる音響表現で，視聴者からの好評を得た。また「秋葉原通り魔事件」や「金融危機」「食品偽装」「派遣切り」など時代を映すテーマの番組では冷静で思慮深い表現を用い，物事の深層を描き出すことに努めた。

また，テレソンや特集番組など，年間を通じて「地球エコ」に関する番組が数多く編成され，幅広い年代層に受け入れられるよう，番組ごとの表現手法にくふうを凝らした。

（4）ドラマ

大河ドラマ『篤姫』では幕末の時代を生き抜いた一人の女性の生涯を，繊細な効果音と流麗な音楽で描き，近年まれに見る大ヒット番組の一翼を担った。『連続テレビ小説～瞳』ではダンスに打ち込む主人公の青春を多彩な音楽と細やかな効果音で描いた。

また新設の『土曜時代劇』では30分という時間の難しさもありながら，2つのシリーズを音の技で紡ぎ，スピーディーで若さあふれる新しい時代劇の魅力を視聴者に届けることができた。

そして「トップセールス」「上海タイフーン」といった『土曜ドラマ』では時代ごとの生き様に鋭く切り込み，大型スペシャルドラマ『白州次郎』から地域ドラマ『帽子』まで，NHKならではのドラマ作りに貢献した。オーディオドラマでは『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』などレギュラー枠を中心に，音響効果の原点を大切にする繊細で迫力のある効果音表現を行った。

（5）BS・ハイビジョン

『NHKスペシャル』と連動した『ハイビジョン特集』が数多く制作され，長尺のスケール感を生かし，繊細でていねいな効果音とダイナミック

な音楽でハイビジョンならではの醍醐味を遺憾なく伝えた。また「カメラマンシリーズ」では，コメントを用いないなど各回の挑戦的な狙いに応えて，個性的で特色ある表現に挑んだ。

（６）スーパーハイビジョンソフト開発

NHK放送技術研究所が開発しているスーパーハイビジョン（SHV）の22.2chサラウンドによる立体音響制作において，NAB（全米放送事業者連盟）ならびに横浜港開港150周年記念博覧会で上映されるソフト『gift～未来の君へ』のサウンドデザインに取り組んだ。一般向けの公開は「愛・地球博」（05年）に続き４年ぶり，公開期間は半年におよび，制作史上最長の９分50秒の作品となった。部内にSHVプロジェクトを発足させ，ロケやポストプロダクションに柔軟な対応ができるようにした。立体音響を実験から作品演出へと，より密接な形で実現すべく，背面・側面・上方・下方からの音が人に与える心理作用も十分に考慮して，サウンドデザインを行った。

２．企画番組

長寿番組『音の風景』は大沼ひろみアナウンサーを案内役に日本・海外の多彩な音風景を紹介。08年度は42本の新作を制作した。

また特集番組では夏期に『シリーズ・音と楽器をめぐる旅～にっぽん音めぐり』と『音の風景スペシャル　わたしの想い出の音』をアンコール放送。年始には新作『サウンドスケープ　みなと三景音楽散歩』を３本制作。そして３月にはFM40周年特集として２時間40分の特集『音の風景スペシャル～耳をすませば未来が聞こえる』を放送し好評を得た。

またデジタルラジオでの放送素材協力や『ラジオ深夜便』（R1）において過去の貴重な音源を発掘したシリーズ「深夜便アーカイブス」に年間通して素材協力した。

３．音響デザイン研究

（１）ライブラリー

番組制作に不可欠な効果音の収録を実施した。08年度は，排気量別に新型乗用車４種，大型バイク３種，各種バス，大型トラック，九州新幹線つばめ，新幹線700系，銚子電鉄など乗り物を中心とした。爆発音，犬２種の効果音の拡充も図った。また収録の機会として，番組制作のロケとタイアップし，コストの節減を意識した効率的な効果音の収録にも努めた。一方で，電気自動車やハウススタジオを活用しての建具音など，職員みずからが収録を行った。アナログ音源（６ミリテープ）のデジタル化も，継続して実施し旧来のメディアの中に埋もれた音の保存・活用を推進した。

（２）設　備

効果音準備室の保守整備体制を強化する為に，メンテナンス業者の一部常駐化を実現した。効果音準備室SE－１（桃太郎）のデジタル信号系統の改善工事を実施し，利便性の向上を図る改善整備をした。入出力マトリックス更新工事とともにPC-DAW（音声編集ソフト）を中心としたシステムに大幅に改装し，高機能・高音質，効率的な準備ができる環境に整備した。また，番組制作の準備に必要不可欠な，映像取り込み装置の更新を進めた。テープレス音声制作環境の改善整備を目標としている。準備室の機能強化とともに，膨大で多種多様な番組準備作業を効率的にするために個人の事前準備作業環境の改善に着手し，PC-DAWを個人貸与することで，軽微な作業，準備室に入る前段階の準備を含めて，一定の効果をもたらした。また，外録クルー（ハードディスク収録セット）に，簡易収録セット６式（小型メモリーレコーダー）を導入し，多くの収録業務に柔軟に対応できるようにした。

４．サウンドステーション

08年度は準備室に加えてダビングスタジオから効果音検索の利用が可能となるように効果音サーバーの二重化作業を進めた。また，「渋谷DEどーも08'」「教育フェア」等のイベントにおいて展示用コンテンツの制作を計画するなど，視聴者に「音」を楽しんでもらい，音響デザイナーの仕事をアピールするために効果音を有効に活用し披露した。年間を通じて，新しい効果音を生むべく生音道具類の新規開発と購入・管理を行った。

放送番組の国際交流

１．番組交換

NHKは，海外の放送事業者との番組交換を，文化交流の促進や放送を充実させる目的で，協力協定や覚書に基づいて積極的に行っている。

08年度は，ラジオ番組の提供と受け入れが行われた。

（１）ラジオ番組の提供

08年度は，楽壇への登竜門として開催された「第77回日本音楽コンクール」（６部門）とポップス音楽番組の３番組をインターネット経由で配

信した。総数21番組を，EBUの会員・準会員に配信した。

08年度の提供総数は，10か国10放送機関に対し31件，57時間25分であった。

（２）ラジオ番組の受け入れ

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団，ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団，クリーヴランド管弦楽団等の世界主要オーケストラの演奏会，シュヴェチンゲン音楽祭，ルツェルン音楽祭，ラインガウ音楽祭，ザルツブルク音楽祭等の第一級の音楽祭，さらにメトロポリタン歌劇場のオペラなどをFMで放送した。

08年度の受け入れ総数は，24か国41放送機関から188件，304時間09分であった。

２．外国放送事業者への取材協力

海外放送機関への取材制作協力はNHKの業務であり，協力協定，ニュース取材への協力，海外総支局との関係等を考慮し，依頼に応じて編集・方式変換・衛星伝送や，カメラ，スタジオ，中継車など設備・機材の貸し出し，要員の協力・あっせんを行っている。

08年度の取材協力は，14か国・18放送機関281件であった。内訳は，外国要人の訪日62件，スポーツ25件，時事リポート194件。

（１）外国要人の訪日

外国要人の訪日に際しては，同行取材チームへの放送機材の貸与，編集および技術要員の確保，衛星伝送などのほか，PAL方式のデジタルカメラ・編集機などからNTSC方式への変換などのほか，放送センターのスタジオと海外放送局のスタジオとを結んでの掛け合い生中継にも協力している。

５月に中国の胡錦濤国家主席が来日した折は，中国CCTVのクルーが大挙同行して取材に当たった。胡主席が早稲田大学大隈講堂で行った演説は中国全土で同時生中継され，NHKは中継車やSNG車および技術要員を手配して協力した。また，CCTVのニュース情報番組『新聞１＋１』の制作スタッフがキャスターとともに来日。NHKは，北京のスタジオとの掛け合い生中継や素材伝送などに全面的に協力・支援を行った。

12月に福岡・太宰府の九州国立博物館で開催された日中韓首脳会談には，中国から温家宝首相，韓国からイ・ミョンバク大統領が出席した。この会議に際して中国CCTVには，取材クルーへのSNG車の手配および福岡局からの素材伝送に協力した。韓国プールの代表幹事となったKBSに対しては，会議終了後に行われた共同記者会見のNHK中継映像を提供した。

（２）スポーツ

スポーツ関係では，11月末に東京で開催されたNHK杯国際フィギュアスケート競技大会に際し，カナダCBCにすべての競技映像を収録して提供した。また，１月末に行われたワールドカップスキージャンプ札幌大会では，オーストリアのORFに対して，競技終了後の選手インタビューおよび衛星伝送に協力した。

「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

「日本賞」は1965（昭和40）年の創設から2007（平成19）年まで，教育番組の国際コンクールとして世界の教育番組の向上および国際理解と協力の増進に貢献してきた。隔年開催の時期を経ながらも着実に歩みを進め，世界各地の制作者が交流し議論する場や，教育番組に関する最新の情報を交換する機会として大きな役割を果たしてきた。その結果，先進国ばかりでなく，発展途上国・地域からも多くの参加を得ている。

08年の第35回からは名称を「日本賞」教育コンテンツ国際コンクールと改め，新たなスタートを切った。これは，インターネットをはじめとする情報通信技術の急速な進展やデジタル放送の開始など，著しい変化を遂げる教育メディアのデジタル化に対応し，コンクールの質をさらに高めることを狙いとする。

内容面では，募集の対象をテレビ教育番組から「音と映像を用いた教育コンテンツ」に広げ，作品部門を従来の「番組部門」４つのカテゴリーから「コンテンツ部門」５つのカテゴリーに組み替えた。これに伴い，従来の「ウェブ部門」を発展的に解消した。

一方，「日本賞」創設の精神を継承するため，シリーズ放送の努力を続けるテレビ教育番組を顕彰する「シリーズ番組部門」を新設した。教育番組の制作が困難な国や地域の機関を支援する「企画部門」については，そのまま継続とした。

また，コンクールの運営や選考についてよりいっそう透明性を高めるとともにコンクールの趣旨について理解を深めてもらうため，コンクールの規程や審査基準をあらかじめホームページで公開した。

通算で第35回，「教育コンテンツ国際コンクール」としては初年度となる08年の「日本賞」は，「教育フェア2008」の一環として10月22日（水）

から28日（火）の７日間，東京・渋谷のNHK放送センターで開催された。

コンクールへの応募は，世界59の国と地域の173機関から，コンテンツ部門に209，シリーズ番組部門に47，企画部門に37，合計で293本となった。コンクールの大幅な刷新伴い，募集期間が例年より１か月短くなったにもかかわらず，教育番組のみを対象としていた時代を含めて，史上最多のエントリー数となった。

審査は，日本賞事務局が委嘱した世界13か国17人の審査委員によって厳正かつ公平に行われた。また，会期中には「クロスメディア・フォーラム」と題して，予備審査を通過した作品のプレゼンテーションやシリーズ番組の上映会，世界の第一線で活躍するクリエイターや研究者が登壇するトーク・セッションなどを開催した。これらの催しには35の国と地域から，延べ1,708人のビジターが参加した。大学生と大学院生を対象とするワークショップを含んだ学生セミナーも行われ，好評を博した。

最終日を飾る「授賞式」は，皇太子同妃両殿下ご臨席のもと，NHK放送センター101スタジオで行われた。会場には，審査委員，受賞者，コンクール参加者や大使館関係者など363人が出席，NHKの石澤典夫アナと元・宝塚歌劇団宙組の女優姿月（しづき）あさとさんの司会進行で，能楽笛方の一噌（いっそう）幸弘さんとチェロの水谷川（みやがわ）優子さんによる演奏を交えながら，華やいだ雰囲気の中で各賞が授与された。（表１）

関連番組は，『Education2.0～激変する世界の教育』（総合，10.18）のほか，『第35回日本賞受賞番組』（教育，11.2），『第35回日本賞授賞式～世界に輝く教育コンテンツの祭典』（教育，11.3）などを放送した。

詳細は，http://www.nhk.or.jp/jp-prize/

放送番組コンクール

１．国際コンクール

08年度は，16のコンクールで延べ29の番組等が受賞した。（⇒p.736）

イタリア賞では，『探査機“かぐや”月の謎に迫る～史上初！「地球の出」をとらえた』がハイビジョン特別賞を受賞した。ハイビジョンカメラで撮影された月や地球の映像のスケール感と，テレビの可能性を広げた点が評価された。

バンフテレビ祭では，NHKとカナダ・NFBの国際共同制作番組『神秘の蝶　驚異の大冒険～北米大陸5000キロを渡る』が部門最高賞のロッキー賞を受賞した。

ヨーロッパで最も権威のある国際番組コンクールの１つ，国際テレビ映像祭（FIPA）では，『NHKスペシャル』「激流中国　病人大行列～13億

表１　第35回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール受賞作品

賞名			タイトル	機関名	国・地域名
グランプリ日本賞			課外授業　ようこそ先輩 みんな生きていればいい	日本放送協会（NHK）	日本
コンテンツ部門	最優秀賞	幼児向けカテゴリー 総務大臣賞	ツェハイ　愛をまなぶ	ウィズ・キッズ・ワークショップ（WKW）	エチオピア
		児童向けカテゴリー 文部大臣賞	アナッシュ・インタラクティブ	リール・ガールズ・メディア（RGM）	カナダ
		青少年向けカテゴリー 外務大臣賞	課外授業　ようこそ先輩 ～みんな生きていればいい	日本放送協会（NHK）	日本
		生涯教育カテゴリー 東京都知事賞	NHKスペシャル 100年の難問はなぜ解けたのか ～天才数学者　失踪の謎	日本放送協会（NHK）	日本
		福祉教育カテゴリー NHK会長賞	ヨルダン川西岸　２つの学校	ティーチャーズ・テレビ	イギリス
	特別賞	国際交流基金理事長賞	茶馬古道　祈りの道	韓国放送公社（KBS）	韓国
		ユニセフ賞	有害情報と子どもたち	カナダ国立映画制作庁（NFB）	カナダ
シリーズ番組部門	最優秀賞	前田賞	スコープ	ネットワーク・テン（TVQ-10）	オーストラリア
企画部門	最優秀賞	放送文化基金賞	そこに道はある	シネリ	スリランカ
	特別賞	日本ユネスコ協会連盟賞	ほら見て，わたしの手	ネパール・テレビジョン（NTV）	ネパール

人の医療」が時事問題部門で最高賞の金賞を受賞した。このコンクールで初めての日本の番組の受賞となった。

インドネシア・バリ島で開催されたABU賞では，テレビ・スポーツ番組部門で『競泳　北京オリンピック代表決定戦』とラジオ・ドラマ番組部門で『FMシアター』「残置物処理班」がそれぞれABU賞を受賞した。

また，シンガポールで開かれたアジアテレビ賞では，『NHKスペシャル』「夫婦で挑んだ白夜の大岩壁」がドキュメンタリー部門の最優秀賞を受賞した。この番組は，アメリカ国際フィルム・ビデオ祭のレクレーション部門でもシルバースクリーン賞（部門２位）を受賞した。

このほか，『マテマティカ２』「円を四角く」が，子ども向け番組では権威あるコンクールの１つであるプリジュネス2008で，子ども審査委員賞を，アメリカ国際フィルム・ビデオ祭で，グランプリを受賞した。

２．国内コンクール

08年度は，16のコンクールで延べ78の番組等が受賞した。（⇒p.737）

放送文化基金賞では，テレビドラマ番組部門で『NHKスペシャル』「鬼太郎が見た玉砕～水木しげるの戦争」が最優秀にあたる本賞を受賞した。漫画とドラマを巧みに織り交ぜ，戦争の現実を多角的に描いた構成が評価された。この番組は，ギャラクシー賞でも優秀賞を受賞した。テレビドキュメンタリー番組部門の本賞には，『NHKスペシャル』「夫婦で挑んだ白夜の大岩壁」が選ばれ，山にかける夫婦の壮絶とも言える生き方が感動的に描かれている，と評価された。

“地方の視点”から優れたドキュメンタリー番組を選ぶ「地方の時代」映像祭では，『被爆者　空白の十年』と『ドキュメント　にっぽんの現場』「千客万来　まちの“不夜城”～鹿児島・巨大スーパー」が優秀賞を受賞した。『被爆者～』は，原爆投下後の昭和20年代に，医療支援が乏しく差別や偏見にも苦しめられた被爆者の実態に鋭く迫った。「千客万来～」は，過疎化が進む町の巨大スーパーマーケットを舞台に，地方の今の姿を見つめたドキュメンタリーである。

文化庁芸術祭では，『NHK広島放送局　開局80年ラジオドラマ～“放送を続けよ！”広島中央放送局の８月６日』がラジオ部門の大賞を受賞した。戦争の理不尽さ悲惨さと同時に，報道のありようを改めて考えさせられる秀作であると評された。

また，テレビ部門の特集ドラマ『帽子』とラジオ部門の『FMシアター』「あの人の声がきこえた」が優秀賞を受賞した。『帽子』は，市井に生きる人の目から被爆者差別の問題を静かに告発し，「あの人の声がきこえた」は，練達の脚本と演技に上方芸能の底力を感じたとしてそれぞれ審査員から評価を受けた。

全日本テレビ番組製作社連盟によるATP賞では，外部制作会社とともに制作された番組の中で，『ETV特集』「アンジェイ・ワイダ　祖国ポーランドを撮り続けた男」がグランプリを，『スーパー職人大集合！コンパクト～技能五輪に挑んだ若者たち』が最優秀賞を，『ハイビジョン特集』「残照～フランス・芸術家の家」が総務大臣特別賞をそれぞれ受賞した。

また，早稲田ジャーナリズム大賞に『探検ロマン世界遺産スペシャル～記憶の遺産　アウシュビッツ・ヒロシマからのメッセージ』が選ばれた。科学技術映像祭では，『NHKスペシャル』「雨の物語～大台ケ原　日本一の大雨を撮る」が文部科学大臣賞を受賞した。